

---

# **最硬の肉体を持つ一般人**

放浪の焼きそば売り

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最硬の肉体を持つ一般人

### 【NZコード】

N6125Z

### 【作者名】

放浪の焼きそば売り

### 【あらすじ】

耐久対魔対呪EXの転生者がいたらどうなるか、という私の興味で書く二次創作です

## 主人公設定（前書き）

主人公の設定です。  
食人鬼書かなきや  
……

## 主人公設定

主人公名：玄武甲羅げんぶこうら

性格：基本的にのんびりとしており、温和で争い事は好まない  
でもふつちんするとどっかから鎖で亀甲縛りした直径約1mで約7kgの甲羅で攻撃してくる。

原作知識はうろおぼえ

魔術回路もない。だが使っている甲羅が神の加護を受けている為、  
甲羅を使っての攻撃は当たる。

ステータス

筋力：E

耐久：EX

俊敏：E

幸運：C

宝具：?

保持スキル

対魔力：EX

魔術？なにそれ美味しいの？状態。

魔術師涙目

対呪：EX

呪いなんてなかつた。と言わんばかりのスキル。

アンリマユエ……

回復：C

常人離れした再生力。でも耐久EXだからエヌマエリシュやられな  
きやこのスキルは出番がない

えいえんのにばんて：EX

温和な性格故相手から攻撃を受けたりぶちぎれたりしないかぎり攻  
撃しない。

緑色の配管工と友達になれそうなスキル

## 主人公設定（後書き）

うひー今からプロローグ書かなきゃ  
誤字あつたら指摘してつかあさい

## プロローグですねえ

「主人公」

「おやあ、ここはどこでしようか？」

見渡す限り真っ白ですねえ。ここが死後の世界でしょうか。見たところ私一人なのでここで孤独に生きるのでしようか。あ、もう死んでいましたね。

「あ、あの……」

おやあ？先程まで私以外いなかつた空間に人が……

「あなたも死んでしまったのですか？どうやら今は一人だけのようなので私はここについての推測は終わつたのでお話でもしますか？」

「あ、ああそのえーと……言いにくいのですが……」

「どうかしましたか？」

「すいませでしたああああああああ…………！」

おやあ、凄いですねえ。ジャンプした後その途中で土下座。見事なものですね。

あれ…………？私この女性になにかされましたつけ？つーむ、思い出せません。

「この度は本当に申し訳ございませんでした！――」

「ん~身に覚えがないですねえ」

「なん……だと……！？」

某死神漫画の主人公の顔みたいになりましたねえ……面白い人です。

「あ、あの！本当に覚えていないんですか！？」

「ん~死んだと思われる数時間前の記憶はあるんですけどねえ。」

「え、ええと。その記憶がない時にあなたは殺されてしまったのです。」

「死因はなんですか？」

「え！？えーと死因は……自然死です。」

「そうですか」死体はどうなりました?私は一人暮らしで山にある家に引きこもつていたので気になります。」

「死体は……食品に入れられている防腐剤が体に溜まり死後硬直で縁側に座つたまま腐らずに、仲良くしていた野生の動物以外は10年間誰も気付かずに放置されていました。」

「そうですか、森のみんなは気付いてくれましたか。」

「動物達は大丈夫でしょうかねえ、時々餌を上げてましたが、……」「じ、自分が何故20代の若さで自然死したのか気にならないんですか?」

「20代で死んでもそれは自然の摂理ですからねえ」

それにしてもなんで20代でこんなに老成したんでしょうかねえ「そ、そうですか……あ、実はまだ死ぬべきではなかつたので転生して頂きたいのです……」

転生……輪廻転生の類でしょうか。……そういえば

「あなたの誰ですか?私は玄武甲羅です。」

「あ、これは『十寧』……神の一柱のアマテラスです。…………つてちが…………う…………！」

なぜ吠えているのでしょうか……熊の滝太郎(5歳)を思いだし  
ますねえ

いやあ、親とはぐれたあのことを育てるのは大変でした。私が23歳の頃に……

「あなたには転生してもらいます!それとチートもつけます!」  
ち、ちいと?ああ、私がまだ高校生の時に聞きましたねえ。あの時はぐれきしが多かつたですねえ……野良猫に富士山とつけたり、野良犬にお米とつけたり。ああ、そういうえば釣つた鰯にイワナとつけましたねえ……

「き、聞いているんですかあ!?」

「聞いていますよ。只昔を懐かしく思つていいだけですよ。」

「……28なのになんでこんなに枯れているんですかあなたは……」

「……」

「なんでおでしようかねえ……」

「もういいです。それでチートですが」

「あらゆる攻撃とかをくらつてしまつても大丈夫な肉体が欲しいです  
ねえ。滝太郎と遊んでいる時に怪我をしてしまいましたし。」

「わかりました（多分EX級でやつと切り傷やしもやけ、やけどになつて魔力とかを無効化、衝撃を吸収する肉体が欲しいんですね  
……）」

「？」

「とにかくでもない」となりそうですが……まあいいです。

「おまけに武器でもあげます。暴走した動物を鎮静できるように」  
「ん~でしたら鎌がいいですねえ。前に滝太郎が暴れた時に縄では  
抑えることができませんでしたから。」

「はい、わかりました。それではよい世界を」

「第一の人生ですか。楽しみです。」

「あ、テンプレで穴が開きます。」

え？

パカッ

「なんどこう」とやしょおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

……

「匠の技で見事に落ちてこきました……つて何を言つてるんですか  
私は」

## プロローグですねえ（後書き）

劇 ビフー アフターが作者は好きです  
そういうえばアフターのときに流れれるピアノの曲の名前はなんでしょうかね？私は知らないのです。

## つまみしたねえ（前書き）

通知表……3が4つしかありませんでした。  
あと全部2つて……高校、大丈夫かな

つきめしたねえ

「な、なんで六なんでしょうが……それに何故私は怪我を……ああ、  
そういうえばがんじょーな肉体をもらつたんだした。この年で物忘れ  
は勘弁したいです。」

「うるさいと笑い自分が今どこにいるのか玄武は推測する  
（）」  
「は……見たところ森でしょうね……。ですが動物の気配が  
ありませんね）

森で動物の気配がない。というのはおかしかった。たとえ冬で冬眠していても微かな氣でわかる。

1

(はて、何故寒くないのでしょうか。)

そう、寒くないのだ。  
死んだ時に秋とはいえ服は冬では寒いだろう  
と思われる服なのに

(田中さんのおかげでしょうか。これはありがとうございます。)

この男、神話は全く知らないのだ。おまけに山で籠もつて自給自足の生活をしていたため機械類に疎い。その疎なはビーボのうつかり並みだ。

「そこには誰ですか!!」何の用だ!!

声をした方を見ると黒一色の服を着て何か武器を構えてるように見える少女がいた。

「私は木戸羅ですよ」

「何をしたかを言いなさい！！」「ん、森の気配を探つていきました。」

「ツー貴様マスターか！！」

「ま、ますたー？」

「惚けても無駄だ！！」

そう言い切りかかるようにくる少女。

そして不可視の剣が玄武に直撃する。

「ボケてないですよ。まだ私は28歳です。それと、今の音と私の頭の何かが当たったようなのは何ですか？」

直撃するが無傷。しかも攻撃されたことに気付いていない。

「ツー？」

少女はうろたえたがやはり歴戦の騎士。すぐに思考を回復させて次の攻撃を行う。

「風王鉄鎧！」  
スドライクヒヤ

（この男はおかしい。何の魔力もないのに私の剣を受けきつたことが。ならばここは一時引いて……）

そして空氣の塊は玄武に当たり

「？」

霧散した。

「そ、そんな……」

ここで黒服の女騎士の直感が働く。

（この男はおかし過ぎる……エクスカリバーを受けきつたりストライクエアを霧散させたり……メイガス（魔術師）か？だが演技には見えない。）

「あの、あなたはメイガスではないのですか？」

「めいがす？なんですかそれは」

「そうですか。ではここに来た理由は？」

「森に動物の気配が一切なかつたので気になつて來たんですよ。」

「やはり……一般人でしたか。」

「？ところでその剣はあ？さつき持つてなかつたようにみえましたがあ」

「えー？ああこれは……そ、そういう手品です……」

「ほへえ～す”いですねえ……」

(あ、危なかつた。もしこの男が頑丈でなければ一般人を殺してしまつところでした……)

「ところで、森を抜けるにはどうしたらいいのでしょうか？」

「へつ？」「こっちです。」

「有難う御座います。」

(これは無視されていても切継に報告した方がよさそうですね……)

「(切継、一般人が森に迷いこんでいたので森の外へ案内します。)

「(…………)」

(やはり無視ですか……)

騎士の少女とそのマスターの溝は深くなつていく

## つきましたねえ（後書き）

最初英靈にしようかと思つたんですが……一般人なので一般人のままいこうと決めました。

食人鬼の方もちゃんと投稿します。

誤字があれば報告してください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6125z/>

---

最硬の肉体を持つ一般人

2011年12月20日19時49分発行